

おうちの図工室・美術室

〇〇のおさんぽ 実践報告

滋賀大学教育学部附属学校 1 年生（後期）木村仁先生の実践 授業時間 3 時間

実践の様子（語りかけ、子どもたちの様子）

STEP1：知っていること、出来ること、感じることで子ども達はできている。

Q：もしも絵本の世界みたいに大風が吹いたら、みんなは誰とおさんぽしたい？



「みて見て！ハムスターのハムちゃんだよ」



「イルカがいっぱい水族館みたい！」

「ぞうくんとおかぜさんぽ」を読んだ後、おさんぽさせたいものを話し合い、プラ板に表していました。スケボーが得意な子は「スケボーをしている自分」、虫が好きな子は「バッタやカマキリ」といったように、おさんぽさせたい〇〇は、子どもたちのこれまでの生活経験と強く結びついていました。

STEP2：A の範囲の外に、自分の知らなかった「何か」（新しい価値のタネ）を見つける

Q：みんなでおさんぽに出かけよう。みんなが楽しくおさんぽできるように、おさんぽの続きを描いていこう。



共感性

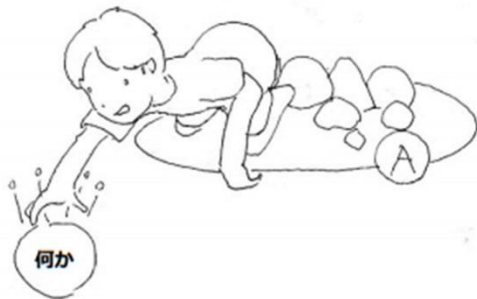
「見て！おかあさんひよこは逆立ちができるよ！」
「こっちはマグマだから、こっちの道に行くといいよ！」
子どもたちは、友だちが自分の思いに寄り添ってくれるという安心感があることで、のびのびと自分の思いを声や動きに出すことができます。そして結果として、表現が豊かになっていくのです。

自分や友達の〇〇をきっかけとして、次々とおさんぽせかいを描いていきます。そのうちに、向かい側や隣の友だちの絵と自然と関わり、それをきっかけに「いいこと思い付いた！」が次々と生まれました。

おうちの図工室・美術室

STEP 3 : 夢や願いの達成のために計画を立てやり遂げる

図工室・美術室は、表現する過程を、
自分自身だけでなく、友達とも共有できる空間



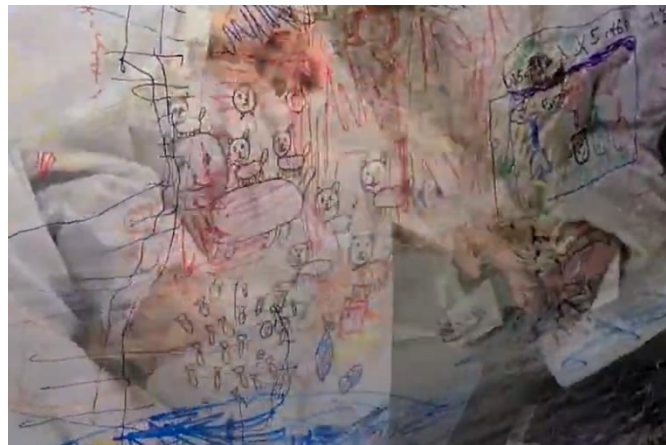
自己を深める

「〇〇君が描いたおうちがあるな。僕はこの上に恐竜を描こう！」
「〇〇ちゃんと〇〇くんの中に、線路を通してみたいな！」
透明シートの向こう側の表現が見えたり、思いがけずお話がつながったりして、表現が相互に作用します。表現が多岐にわたる中で、「わたしはもっと〇〇したい」という思いをもつことが、自分の価値観を更新していくことにつながるのです。

まるで空中にお話を展開するように描き進めていく子どもたち。思いがけずに隣や向かいの絵と影響し合う中で、更なる「いいこと考えた！」が生まれていきます。情動に身を任せながら、描きたいおさんぽせかいを描いていきます。

STEP 4 : 発見したものに新たな自分なりの価値づけ

Q : 友だちのおさんぽせかいにおでかけしてみよう！



自己を深める

「ここは海の世界だ！魚がたくさんいるよ！」
友だちと語り合うことで、自身の表現を見つめ、
捉えなおしています。

共感性

「こっちにオニがいるよ！逃げろ～！！こっちに
いくと……」
友だちの表現に関心を持ち、面白がることで、お話
がさらに続いていきます。

「ここは〇〇のせかい！」「ここに〇〇がいるよ！」と友だち
に教え合いながら、描いたせかいに意味づけをしていきま
した。思い付いたことを話し合い、さらに描いていく姿もあ
りました。

